

小さな村ならではの教育を核とした“学び”でつながるむらづくり

概要

人口減少や高齢化に悩む本村では、多くの地区において児童数の減少や小中学校の統合や閉校を危惧、懸念する声も大きく、従来の取組では課題解決に有効な手段を打ち出せていなかった。そこで、地域の将来を担う子どもとそれを取り巻く子育て世代から高齢世代にわたる全ての世代が取り組める、豊富な地域資源を活用した特色ある生涯学習プログラムの開発をはじめ、子どもとともに学び、育み、育まれるむらづくりを実践しようとした。

また、村ならではの教育環境は、自然環境だけでなく人が集まる場づくりも大切である。老朽化した教育インフラのマネジメントをトータルに考えた、小さな村に見合った施設整備と維持管理のあり方を住民と共に考えていく。

岡山県西粟倉村



住民ワークショップ
こんな場になったらいいな！

事業の内容

事業の内容

“学び”をキーに
住民の生涯学
習ニーズを把握

- ワークショップ開催
- モデル地区での実践活動
- 子どもの体験活動への住民参画
- 小学校の自然体験交流活動実践

学びと交流の
場検討(基本計
画)

- 全住民アンケート実施
- こんな場になったらいいな検討ワークショップ開催

地産地消の基
幹施設実現検
討

- 木材供給検討会

総事業費

10.1百万円

ポイント

「こんな事ができたらいいな」を考える事から始めて、住民の力で実際の「場」=学びの施設建設へ向かっていこうとしている。



考えた成果を発表しました

事業の成果

アンケートや住民とのワークショップを重ねることで、地域の活性化を、住民がいきいきと学ぶ姿を実現するという視点で共に考えていく事ができた。その過程で、住民から学びと交流の場に対する強い要望が明確になり、老朽化した教育インフラの整備の検討が、住民目線で進めていける素地ができた。

今後は、教育インフラを含めた基幹施設を平成30年度を目途に建設することを目指して、引き続き利用者である住民と検討を重ね、住民アンケートにも多く求められていた地元の材を使い地元で建設する地産地消の施設づくりを進めていく。